

平成 30 年度第 1 回都城市総合教育会議 議事録

日 時：平成 30 年 7 月 19 日(木)午前 10 時 30 分～12 時 00 分  
 場 所：都城市役所本館 4 階 秘書広報課前会議室  
 出席者：都城市長 池田 宜永、教育長 児玉 晴男  
 教育委員 中原 正暢、濱田 英介、岡村 夫佐

発言者	内 容
吉永総合政策部長	<p>定刻になりましたので、ただいまから平成 30 年度第 1 回都城市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>私は、本日の会議の進行を務めさせていただきます、総合政策部長の吉永でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、会議次第に沿って進めさせていただきます。はじめに池田市長から挨拶をお願いいたします。</p>
池田市長	<p>あらためまして、こんにちは。本日は平成 30 年度の第 1 回総合教育会議ということでありまして、どうぞよろしくお願いいたします。本年度から本市も教育長を市長が任命し、議会で承認をいただくという形になりまして、あらためて新しく児玉晴男教育長にご就任をいただいたところであります。また、岡村先生にも教育委員としてご就任をいただいたところであります。そういう意味では、新しい体制でこの 4 月からスタートをしたと感じているところでございます。</p> <p>この総合教育会議を本市も平成 27 年度からスタートしており、我々行政と教育委員会での公式な会議ということになります。本日は、私も皆さん方のお話をお聞きしながら、お聞きしたいことについては率直に聞かせていただければと思っておりますし、教育長また教育委員の皆様方にも、日ごろ感じていらっしゃる、何かお聞きになりたいことがございましたら忌憚なく、自由闊達に話を進めていただければありがたいと思っております。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
吉永総合政策部長	<p>ありがとうございました。続きまして、児玉教育長から挨拶をいただきたいと思えます。</p>
児玉教育長	<p>はい。この総合教育会議といいますものは市長と教育委員会が教育行政という重点的に講ずべき施策について話し合う非常に貴重な場として設けられております。市長の考え方、そして教育委員会の考え方のベクトルを一緒にして進んでいこうという形でございます。この新教育委員会制度になりまして、初めて教育長として任命されました。そういう任の重さもしっかりと受け止め、応えられるように、この会も推進していきたいと思っております。</p> <p>ところで、今年の暑さは非常にすごい暑さになっております。17 日に愛知県豊田市の梅坪小学校男子 1 年生が熱中症で亡くなるという痛ましい事案がございました。決して対岸の火事ではないと思っております。都城市教育委員会と</p>

	<p>いたしましても、これからも校長先生方と一緒に連携しながらやっていきたいと思っております。</p> <p>本日の会議は、有意義なテーマで教育行政について話していきたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。</p>
吉永総合政策部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは4の意見交換に入ります。進行を池田市長にお願いいたします。</p>
池田市長	<p>それでは意見交換に入らせていただきます。まずは、(1) チーム学校について、担当より説明をお願いします。よろしくお願いいたします。</p>
新宮生涯学習課長	<p>生涯学習課の新宮でございます。それではチーム学校についてということで、今回は、子どもたちを地域にかえすためにと題しましてご説明をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。国の動向につきましては2ページから3ページのとおりでございます。本市でも学校運営協議会の設置や、放課後子ども総合プランの策定は実施しているところでございます。また、国は地域と学校をつなぐコーディネーターとなる地域学校協働活動推進員の存在が鍵であるとしております。</p> <p>県も国の方針に基づきまして、みやざき地域学校パートナーシップ推進事業において、様々な地域学校協働活動を支援しております。</p> <p>本市では3つの宝の一つである子どもたちをより一層輝かすために、人間力あふれる子どもたちの育成に向けた様々な施策を進めているところです。学校運営協議会も市内の全小中学校に設置しておりまして、保護者や地域住民等の参画による社会に開かれた地域と共にある学校づくりが進んでいるところでございます。地域で子どもたちを育む環境づくりも始まっております。</p> <p>7ページからは、地域における教育活動を紹介しておりまして、学校運営協議会をはじめとして、各地域で子どもたちを支える仕組みが整いつつあるところでございます。</p> <p>そういった状況を踏まえまして、子どもたちの育成とそれを支える仕組みづくりを進めていきたいと考えております。特に3ページでお示ししました国のプランにもある地域学校協働活動推進員の存在が仕組みづくりの鍵になりますので、各団体をまとめる意味でも、学校支援地域本部を設置し、子どもたちの居場所づくりを進めると共に、地域学校協働活動推進員の発掘と養成が不可欠であると考えております。</p> <p>今後は学校運営協議会や放課後子ども教室等を中心に、その活動について細かく研究してまいりたいと考えております。説明は以上でございます。</p>
池田市長	<p>引き続き、コミュニティ文化課をお願いします。</p>
東コミュニティ文化課長	<p>コミュニティ文化課の東と申します。よろしくお願いいたします。お手元の小中学校民族芸能伝承活動についてご説明いたします。これは地域活動の中の1つの活動になります。1ページに伝承活動を行っている学校を掲載しております。19の小学校、それから1つの中学校で伝承活動が行われております。学校に民俗芸能伝承研究会というものが設置されておりまして、各地区の保存会と連携</p>

	<p>をされて、学校において伝承活動が行われております。</p> <p>伝承されている内容については、地区の文化祭、運動会等の地域行事等で発表をされております。保存会の皆様からは、学校において、小中学生に指導をすることによって、自分たちも伝承を続けていかないといけないというような意欲も湧いてくるということも言われております。また、子どもたちについても将来、都城に帰ってきた場合はまた伝承に参加したいといった話も伺っております。そして、この伝承活動については、補助金としまして、保存会の指導者の方に対する報償、それから、伝承活動で使う備品の修理とかそういったものの費用について補助をしているところでございます。説明は以上です。</p>
池田市長	<p>ありがとうございました。生涯学習課ならびにコミュニティ文化課から説明をいただきましたけれども、ただ今の説明につきまして、ご意見また、ご質問等がありましたらお願いいたします。</p>
濱田委員	<p>小中学校の支援訪問で学校に行かせていただいておりますが、地域のコミュニティがどの学校にも入り込んでおり、学校の方は非常に感謝しているとお聞きしております。ただ、それは学校によって濃淡があって、確かに良くやっていると感じられるところもあれば、そうじゃないところもあります。</p> <p>一概には言えませんが、それはコーディネーターの方の能力、性格、そういうものが非常に大きく影響しているのではないかと感じます。</p> <p>私がおります都城工業高等専門学校の数名の教員と学生が、退職された校長先生が主にされている沖水小中学校の学習活動にかかわっております。土曜日に行われるため、サタデー・スタディでサタスタといい、かなりしっかり組まれた授業時間で、無料で活動しております。こうした活動が市内で10か所近くありますが、かなり喜ばれています。ただ、こちらも本来の業務がありますし、学生は部活動や、平日は授業もあるものですから、活動は制限されてしまいます。しかし、こういう地域の力を活用すれば、まだまだ広がるのではないかと思います。そういう場合にコーディネーターの存在が大事ななと思います。それを市がある程度バックアップしていただく、あるいはウォッチングしていくという状態になると、充実したものになると思います。以上です。</p>
池田市長	<p>ありがとうございます。他に発言のある方はいらっしゃいませんか。</p>
岡村委員	<p>私の方は地域の活動についてお話をさせていただきたいと思います。地域が次世代を育てる例として、私が高千穂に赴任しました時の、高千穂の夜神楽の伝承についてお話しします。</p> <p>夜神楽の始まる1か月ほど前から、夜に地域の長老という方、ベテラン講師の方、小中学生が一か所に集まりまして、ずっと夜遅くまで練習します。大人の中に子どもたちが入って、舞うということ以外にも、礼儀であったり、地域のすばらしさであったり、人間性であったりと様々なことを学んでいくわけです。子どもたちはそうやって成長していきます。その成長した姿は学校でも見られるものがあります。そして、成人しまして県外に出ましても、神楽の時期には戻ってくる方もいらっしゃいます。そんな姿があるのでとても素晴らしい</p>

	<p>なというふうに感じているところです。</p> <p>有水小学校にも赴任しましたが、有水小では有水中と一緒に、有水中学校の体育館で鉦踊りの練習をしています。そこでもやはり自治公民館長さん、保存会の方、それから保護者の方々と一緒に練習をして、地域での伝承活動が行われております。学校でもそうやって育ってきた子どもたちは本当に有意義な活動をしてくれ、ありがたいなと思います。</p> <p>こうして地域が中心となって連携が行われているわけですが、学校側もやはりそれに協力と言いますか、練習を見に行ったり、時間があれば教職員も一緒に参加したりと、そういう形で連携がとれているところです。</p> <p>小学校と地域との連携を考えますと、色々な場面で地域の方と交流していくわけですが、個別にお願いしているものですから、時間的なロスもあるかと思えますし、学校の思いと地域の思いがずれるところもあると思えますので、やはりコーディネーターが1人いらっしゃってその方をお願いできると、より充実したものになると思ったところです。</p> <p>明道小学校にもおりましたが、明道小学校も自治公民館長さんが素晴らしい方々が多く、自治公民館長さんにこういう連携をしたいということでお願いすると、教えてくださり、人選もしてくださったりしますので、コーディネーターとして活躍していただける方々は、地域にいっぱいいらっしゃるのではないかと考えているところです。以上です。</p>
池田市長	ありがとうございます。
児玉教育長	資料の2ページにありますますが、国の施策の中で②学校支援地域本部の設置とありますが、以前は、都城にも設置されておりました。志和池地区でございます。これは国の決まりで、各地区にこの本部が出来上がったのですが、2年経ったら国が引き上げてしまいました。それで、これが残っていない状況になります。実はこの志和池地区に、学校支援地域本部を設置した際のコーディネーターがいらっしゃって、その方は今でも、ご自分で名刺を作り、この地域と学校とをつなぐコーディネーターとして、実際に活躍をされています。そういう地区が残っているということ、そのような方々をきちんとこちらでも把握をし、そしてサポートをするというのが大切になってくるのではないかと考えております。
池田市長	わかりました。今のお話を聞くとコーディネーターというところが非常に重要であるということですが、学校運営協議会に携わっている地域の方というのは、コーディネーターになりうる人が既に入っているのではないのでしょうか。学校運営協議会に携わっている地域の方というのは、その地域のリーダーみたいな人だろうなと思います。これと組織を別途また作ってとなると、重複しているようなことになってはいないのですか。
児玉教育長	実は、学校の協働推進員や、学校運営協議会というのは、学校の課題を解決するために召集される方々で、随時、地域に存在するコーディネーターとはやはり若干色が違うと思います。学校は、校長や教職員が変わっていきます。そ

	<p>れに伴って学校運営協議会も選出され方が違ってくると思います。そこで、地域は地域でこの人をお願いすれば必ずなんとか上手くできるという人を作っておかないと、学校が新たなものを取り入れたり、始めたりするときに、困ってしまいます。そこに地域としての成り立ちがあり、上手く進行できる方がそこにいらっしやれば良いのではないかと考えます。</p>
池田市長	<p>率直に申し上げますと、地域で活動して頑張っている方というのは、そこに役がいくつも重なってきます。学校運営協議会にもみなさん係わってくださっています。そこでまた別途、学校支援地域本部を作るといのは、相当な負担がかかると考えます。運営の在り方、組織の在り方を含めて、より効率的かつ負担も軽減できる形にした方が、地域の方々もより参加していただき易くなるのではないかと考えます。</p> <p>それとこのコーディネーターというのは別な話になると思います。コーディネーターというのは、どこか属人的なところがあると考えます。例えば商店街ですが、その人がいるからこの商店街はなんとか盛り上がっているというような人です。そこにリーダーがいるかという世界だと思えます。</p> <p>個人的な感想にもなりますが、地域からすると少し負担が出てくるのではないかと考えます。その辺を整理すれば、より良くなる気がしました。</p>
児玉教育長	<p>おっしゃるとおり、人口減の中で役割の集中は必ず言われることだと思っています。そして、コーディネーターが属人的になってしまうということもあります。</p> <p>学校は学校運営のために学校運営協議会に動いていただいておりますが、そのお返しをする場としても子どもたちを地域に返すことが必要になってくるわけです。</p> <p>部活動等も段々と圧縮されるようになりまして、時間は生まれてきます。その時間を上手く地域で受け皿にならないかと考えたときに、受け皿になりえる地域というのは、まだまだ少ないと思っています。そこでコーディネーターが必要となります。コーディネーターも研修や勉強していただかないと育っていきません。また、新たなコーディネーターも発掘していかなければいけないと思います。新たなリーダーを発掘するようなプロジェクトも考えていかなければ、新リーダーのような形で良い結果が生まれるのではないかと考えます。</p>
池田市長	<p>コーディネーターを探すのは難しいと思いますが、例えば、これまで学校教育に一切携わったことのない方がされるのが良いのか、教育経験者がされるのが良いのか、どちらが良いのでしょうか。</p>
児玉教育長	<p>私的な意見ですが、私は自分が指導主事の時に木城町に携わりました。木城町ではまったく畑の違う、学校教育に関係のない方で、子どもが大好きだという方でした。そうすると学校に新しい風が吹いてきます。これはやはり、すばらしい学校の変化だと思いますし、学校はその方々がしていただくことをありがたいと思いつつ、何かお返しをしないといけないという気持ちになっ</p>

	<p>ていきます。そういうところでは、教育経験者だけに頼るのではなく、全く関係のない方で新しい風を学校に入れて頂いたり、新しい風で物を考えたものを学校に理解していただいたりということが大切かと思えます。</p>
池田市長	<p>そこに線引きをする必要はないのかもしれませんが、私はいつも外の空気と言っているので、今、教育長がおっしゃった話というのはそうだろうなと感じます。より良いものにしていくためには、チャレンジが必要です。現状維持をしても物事は上手く進みません。そうしたときやはり、違う発想が必要で、ある意味全くの素人があえて石を投げ、それで波紋が起こり、そこで何か少しでも化学反応が起これば良いと思っています。</p> <p>コーディネーターを探すのは非常に大変だと思いますが、様々な角度から見つけていくことが大事だと思います。いずれにしても地域と学校と、家庭と三位一体で、子どもたちをしっかりと守っていける体制をつくれるようになることが、子どもたちにとって一番良い形だと思います。</p> <p>テーマがまだ他もあるので、次に進ませていただきたいと思っています。</p> <p>では、(2) 対話的で深い学びの実現に向けてということで、担当課より説明をお願いいたします。</p>
前村学校教育課長	<p>学校教育課の前村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>「対話的で深い学びの実現に向けて」ということで、その手立てとして副題にあります「小規模校による月一合同学習の実現に向けて」ということで説明をさせていただきます。</p> <p>学習指導要領が平成 32 年から小学校、平成 33 年から中学校で完全実施となります。それに向けて、主体的な学び、対話的な学び、深い学び、この 3 つの学びをきちっと配慮した授業づくりを行い、平成 32 年度からの実施に繋げて欲しいという文科省からの告示がございました。</p> <p>このことを受けまして、児童数の減少が与える子どもたちへの学びの影響ということで、どうしても小規模校の児童への影響が大きいと我々は考えました。</p> <p>1 つは、人間関係の固定化です。特に小規模校だと、ある程度評価の部分で、固定観念が子どもたちにも保護者にも備わってしまっていて、他の子どもたちの成長が促されないという課題があります。もう 1 つは限られた学習形態ということで、少人数ですから、グループ学習や、全体で討論をして話し合いを深めていくということができない状況にございます。こういった課題をふまえると、主体的・対話的で深い学びが環境的に不十分だと思いましたので、小規模校と一緒に集まって合同で学習することで、それを解決できないかと考えました。</p> <p>月一合同学習ということで、小規模校が集まって、人数や、学習形態を工夫しながら、主体的・対話的で深い学びの場を保障するものであります。月一合同学習の実施に当たっての留意点を 5 つ掲載させていただきました。この中で特に我々が一番注目しているのは (3) です。やはり、単発的にやるのではなく、継続的・連続的に繋がっていかないといけないと我々は思っています。</p> <p>各学校で、指導したことを子どもたちは新しい感覚で学びます。その学んだ</p>

	<p>ことを持って帰って、今度はその学校でまた新しい学びに発展するということがあります。つまり、教師の授業力にも繋がっていくのではないかと考えております。</p> <p>月一合同学習の対象学校ですが、今、都城市で考えられる月一合同学習につきましてはこの5つの町の学校ではないかと思っています。</p> <p>普段、複式学級でしか授業を受けられない子どもが、単式学級で授業を受けられるというメリットがありますし、少人数しかいない子どもが多く子どもたちと一緒に勉強できるという利点があります。また、授業を合同で行うことで、先生の数も増えるため、授業が充実するのではないかと考えています。この月一合同学習は、教師の授業力改善にも繋がっていくことが1点と、もう1つは、学力向上です。いわゆる見える学力についても上がってくると思っておりますが、特に見えない方の学力です。例えば学習の学び方、話し合いの仕方や、コミュニケーション力といった見えない学力についても、子どもたちにかが付いていくのではないかと考えているところです。</p> <p>合同学習にあたって今考えられる課題として4つあげられます。</p> <p>最後に4番ですが、これはもう究極的な将来像でございますが、こういった月一合同学習を重ねていく上で、最終的には、学校に集まるときに、地域の方々も一緒に呼んで、その地域の方々による体験学習等の授業もできないか。あるいは、その地域の方々が、お互いに交流しあって情報交換していただいて、それをまた持ち帰ってその学校で有効活用していただく。そんなことが将来、地域と学校とで一緒にできたらと思っているところです。以上でございます。</p>
池田市長	<p>ありがとうございました。ただ今、説明いただきました(2)の対話的で深い学びの実現に向けてということでもありますけれども、ご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。</p>
岡村委員	<p>対話的で深い学びということで、キャリア教育の面から考えてみました。今の小中学生が社会に出る時には、新しい職業が半分は占めているのではないかという予想結果が出ているようです。学校で学んだことがそのまま社会に出ても通用しない、そういった時代に子どもたちを出すということが想定されています。では、学校で知識・理解を深めるためになにが必要かと考えた時、子どもたちに新しいものを生み出す力、そしてコミュニケーション対話をしながら、より良いものを作り出す力、そういう力を育てる。この基礎の部分学校教育の中で何とか培っていけないかということで、対話的で深い学びの力の必要性が出てきていると考えたところです。</p> <p>今、学校現場をみていますと、子どもたちからたくさんの意見があがっても、結局は先生がまとめてしまい、黒板を写すといった状況があります。子どもたちの中からまとめさせようということを念頭に置きながら、意図的に授業を進めていくことが必要ではないかと感じています。また、先ほど小規模校のコミュニケーション能力という話ができましたけれども、不登校の子どもたちをみますと、小規模な小学校から大規模な中学校にきた生徒や、転校してきて知り合</p>

	<p>いがいないといった生徒が不適應を起こして不登校になっている場合が1番多いです。ですから、そういうこともこの対話的な学習ということで、上手く子どもたちに乗り越える力をつけられるのではないかと考えています。</p> <p>ぜひ小規模校だけでなく、大規模校におきましても考えていただき、若手教職員もこれからどんどん増えていきますので、そういう教職員の指導力向上も含めて大切になってくるかと思えます。以上です。</p>
池田市長	ありがとうございます。
中原委員	<p>この考え方、非常に良いなと僕は思っております。</p> <p>先ほどの「チーム学校について」とリンクする部分があると思うのですが、社会教育推進協議会で交流会をさせていただいた時に、壮年部、青年部、女性部、皆さん色々行き詰まり感を感じていらっしゃる方がほとんどでした。では、皆さん学校に集まって、女性部も壮年部も学校を核として活動されてはどうですかという提案をいたしました。その中で新たなコーディネーター等が見つければ良いというお話しをさせていただきました。そして、先ほど教育長もおっしゃったような教育関係者じゃない方が、コーディネーターをされています。そうした時に、地域コミュニティの核となるのは、今後は学校になるのではないかと考えております。学校という場所に一度来ていただいて、話し合いをすると、雰囲気の変った感じになるのではないかと、そういう意味では対話的で深い学びというのは色々な方々の協力も得られるのではないかとと思います。</p>
池田市長	ありがとうございます。
児玉教育長	<p>小さな学校が多いということのメリットは、その分、先生たちが多くいることです。大きい学校は1クラス40人規模で先生が1名入っているのが、複式学級であればクラスが60人規模でも、3人はついていきます。そのメリットを大いに生かすべきだと考えております。集まって学習することによって、各先生がそれぞれの役割を持って授業をしていただくということが、非常に有効ではないかと考えております。実は県内でも、既に始めている地域がございまして、非常に大きな効果をあげております。それと、最後のページにあげておりますコンパクト化された地域コミュニティですが、もちろん学校にきて色々話をさせていただくこともそうですけれども、日ごろはあまり学校があるような中央部にいけない方も、目的は買い物でも良いので、一緒にバスに乗ってきてもらう、集まってもらうことで、地域の方々がそれぞれ話をする機会もできる。そういう機会も狙った上で、子どもたちの学習の一つの在り方になればと考えております。</p>
池田市長	わかりました。
濱田委員	<p>小規模校が月1回集まる授業は良いなと思えます。その回数が多ければ多いほど良いわけですが、そこには距離と時間という問題があって、どうしても限界があります。月1回でもやった方がいいと思えます。それをやりながらeラーニングやテレビ講義等を併用して、子どもたちがお互いの顔を見合えると、</p>



	<p>普段の授業でも肌感を残しながら続けられるのではないかと思います。そういうものを使って足りない所を補うということも考えていかなければならないと思います。</p>
池田市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>先生方の話を聞きながら、私も合同学習というのは、基本的に良い案ではないかと思いました。それこそ濱田先生が先ほどおっしゃったように、月1回で良いのかという話ですけれども。もちろん課題はあるのですが、もしクリアできるのであれば、すぐにでもやりたいという感じなのですか。その熱量をお聞かせください。</p>
前村学校教育課長	<p>はい。そう考えています。</p>
児玉教育長	<p>といたしますのは、今現在、複式学級にて少人数でやっている子どもたちには、非常に学力の高い、能力の高い子がいますけれども、中学校に行って、高校に行くと、なぜかそういう子が擦れてしまいます。つまりは、その分だけ自分を出すことや、対話するといった経験をしていないのではないかとされています。であれば、今その子たちにこれを提供できればと思っております。また、月1回というのは、5・6年生が月1回、3・4年生が月1回、1・2年生が月1回となり、合計月3回になります。</p>
池田市長	<p>なるほど、各学年毎にですね。</p>
児玉教育長	<p>はい。月3回にはなりますが、その子たちにとっては月1回です。そういう形で実現出来ればと思っております。</p>
池田市長	<p>先ほど、県内でもう既に実施されている例がありますとおっしゃっていたのですが、そこも月1回でされているのでしょうか。</p>
児玉教育長	<p>はい。月1回になります。</p>
池田市長	<p>お聞きしながら、良い話だなと思いました。前村課長もおっしゃっていましたが、単発では意味がありません。やるのであればやめない覚悟を持って始めるということが大事だと思います。</p> <p>岡村先生がキャリア教育の話をされましたが、まさにそこで、これからの時代はもっとそういう時代になっていきます。</p> <p>ここに主体的・対話的・深いと書いてありますが、どれも大事です。今の子どもたちがさらされる世界は、人間同士だけではなく、AIとも戦わなければいけない。すなわち、AIに仕事を奪われる時代になります。</p> <p>小規模校にいとどうしてもそういった部分が不足してしまい、大規模校に行った途端に、上手く人間関係が築き難いということがあり、月1合同学習をすることによって少しでもその原因を取り除いてあげられるのであれば、それは早くからやってあげた方が子どもたちにとっては良いですし、結果として先生方の指導力にもつながるのであれば、良いのではないかとお聞きしたところです。</p> <p>あと、時間も限られておりますが、最後(3)小中学校の環境整備について担当課より説明をお願いいたします。</p>

江藤教育総務課長

教育総務課です。よろしくお願いいたします。教育総務課では小中学校の安全・安心な環境整備に日ごろから取り組んでおります。今回は4事業についてピックアップいたしました。それでは1ページをお開きください。毎年、学校から修繕の要望があります。その件数と、対応件数を載せております。教育総務課では、学校技術員を13校に対し9名配置しております。その他の41校に対しましては、環境美化の嘱託職員を配置しておりますので、まずはこの学校技術員と環境美化嘱託職員による修繕を先にさせていただきまして、対応できないようであれば、営繕担当にお願いがきている状況です。

続きまして、3ページをお開きください。こちらが、空調機の設置ということで、暑さ対策です。平成30年4月1日に文科省から、学校衛生環境基準の改正がありまして、教室の望ましい温度が17℃以上28℃以下に改正されました。現在、小中学校の図書室、パソコン室等には設置を完了しておりますが、普通教室へは、まだ完全整備はできておりませんので、児童生徒のための快適な学習環境の整備が急務だと考えております。今後、調査研究しながら、検討してまいりたいと考えております。

こちらには書いてございませんが、文科省が空調を設置した学校にアンケートを取った結果がございまして、空調設置による教育環境向上の効果ということで、1番目はやはり、空調設置後学力の向上がみられる。2番目は空調設置により集中力、学習意欲の改善がみられる。そして最後3番目ですけれども、空調設置により健康面も改善し、疾病による保健室に行く生徒数も減ったというようなアンケート結果がでております。

続きまして4ページをお開きください。こちらが扇風機の設置になっております。既に普通教室も設置が完了し、今年度小学校では少人数教室、中学校では特別教室の整備を検討しております。その他の暑さ対策にしましては、グリーンカーテンとしてゴーヤの苗を各学校に配布し、暑さ対策もしております。ミストシャワーと冷水器につきましてはご覧のとりの学校で独自に整備、もしくは卒業生PTAが寄贈により設置となっております。

続きまして5ページのブロック塀調査になります。本市におきましても6月20日と21日に調査いたしました。本市における不適合のブロック塀はございましたが、その全てが、控え壁がない又は、控え壁の間隔が基準を超えているという調査結果でございます。今後、ブロック塀の撤去及び改修工事を行う予定でございます。続きまして、遊具の修繕についてでございます。現在、小学校の遊具施設が629機設置されており、平成26年に修繕の緊急の調査を実施いたしました。350か所が早急な修繕が必要ではないかということが判明し、現在まで240か所残存しているような状況です。平成28年12月に本課で学校施設の整備修繕基準を策定しました。こちらは小学校学習指導要領解説体育編という文科省が出しております基準を基に策定しました。240か所の危険状態の部材につきましては、本年度と翌年度の2か年をかけて全て改修する予定です。これからも児童が安全・安心そして楽しく遊べる遊具環境を作ってまいります。

	以上でございます。
池田市長	ありがとうございました。ただいま説明を頂きましたけれども、ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。
中原委員	<p>先ほどの空調についてですけれども、これは早急に色々と進めていただいた方が良くと思います。僕の方も一学期の学校訪問が終わったところですが、学校訪問時には、各学校とも扇風機が回っていました。ただクラスによっては非常に風通しの悪い教室もございました。特に理科実験室等においてプロジェクター投影等で暗くしないといけない場合は、カーテンを閉めきっており、扇風機だけでは暑い熱風が回っているところもありました。また、その授業の内容によっては、プリント配布が多かったりしますので、扇風機の風でそれが飛んでいたりして、なかなか授業に集中できない場面というものも低学年では見受けられました。</p> <p>遊具関係についてなんですけれども、ここまで腐食するというのはやはり常日頃の点検というものも必要と思っております。ただ、遊具関係の業者は専門になりますと非常に高額な点検料または修繕料というものが必要になってきます。ところが、こういう鉄の部分については、町工場の方でもその強度を図る機械というのはお持ちである会社も多いようです。基準値さえ判れば、町工場でも出来るのではないかと思います。また、一般社団法人日本公園施設業協会(PFA)では、シールを貼っています。基準値をクリアしていることを示すものです。そういったローカルルールでも、本市の方で決めていただいて、そのシールを貼って点検月を確認するというようなものがあれば、遊具が突然壊れるというような危険性は大幅に減るのではなかろうかと思えます。あとは、学校側ですが、いわゆるリスクヘッジのため、子どもの体力向上に遊具を使用するという話をあまり聞きません。つまり、不必要な遊具も多いのではなかろうかと思えます。修繕よりは撤去の方が良いという場合には、素早く撤去しても全く問題ないと僕は思います。</p>
池田市長	ありがとうございます。
児玉教育長	<p>学校では安全点検をしております。法令上では毎学期一回以上やらないといけないことになっていますが、それがどのようになされているかというのが、中原委員のご意見とクロスする部分だと思えます。</p> <p>岡村先生が校長をされている時はいかがでしたか。</p>
岡村委員	そうですね、実際使ってみてということで、職員がずっと回っていました。子どもと一緒に点検するというのもありました。
中原委員	私が園長をしている保育園でも、職員主導で遊具の点検をしておりますけれども、判らない部分があります。そこで、年に1回ぐらいは業者に来てもらって、点検をお願いしています。ただ高価です。修繕もかなり高価です。
池田市長	<p>それが専門業者ですね。</p> <p>学校の場合は、今言われたとおり、そこを先生方をお願いしているという形ですね。学校において、業者に点検をしていただくということは無いのですか。</p>

岡村委員	あります。
江藤教育総務課長	はい。点検は専門業者に依頼しております。平成 26 年の時点で、様々な所が悪くなっているというのは判明しております。
池田市長	それは点検ですね。それで今から修繕しますという、その修繕については。
江藤教育総務課長	修繕もやはり専門業者に依頼する予定です。
池田市長	<p>今回はそういった形で良いのですが、今後、続けていくときに、専門業者でなくても出来るのかは判りませんが、先ほど中原委員がおっしゃったように上手くシステムタイズして組み込めると、コストも少し抑えながら、安全性を鑑みることが出来るのかもしれない。</p> <p>あと 1 点、空調機ですね。これは私も以前から気になっていて、実際に学校に行かれてみてどうですか。</p>
中原委員	そうですね。クラスによってはそこまで汗をかくような感じではない教室もあります。逆に、これはちょっと子どもたちにとってかわいそうだなという教室もあります。
池田市長	<p>文科省の基準改正もありますけれど、我々が子どもの時代とは全く違って、それと同じ感覚のままの基準で引っ張ると命に係わる世界になっているのだと思います。そこはしっかりと我々も考えないといけません。</p> <p>今、予定の時間でございますけれども、他に何かよろしいですか。また、何かありましたら、お越しいただければ、色々な形でお話できるかと思えます。</p> <p>私も今日は色々ざっくばらんに話をさせていただいて、勉強させていただきましたので、しっかりこれを活かさせていただきたいと思えます。教育長以下皆さん方もよろしく願いいたします。</p> <p>それでは意見交換は以上にいたしまして、あとは事務局にお返しします。</p>
吉永総合政策部長	<p>皆様活発にご議論いただきましてありがとうございました。平成 30 年度の第 1 回目の都城市総合教育会議はこれで終了いたします。</p> <p>次回の会議日程につきましては、詳細が決まり次第、事務局よりお知らせしますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>次回もまた活発なご議論をお願いしたいと思います。本日はありがとうございました。</p>